

JAFTMA

JAPAN FISHING TACKLE MANUFACTURERS ASSOCIATION

平成31年1月31日 発行 第73号

2019年日釣工会長挨拶

新時代の幕開けに釣り与自然を愛する想いを世界に発信



一般社団法人
日本釣用品工業会
会長 島野 容三

謹んで新年のお祝いを申し上げます。

旧年中は（一社）日本釣用品工業会（日釣工）の活動に、多大なるご支援・ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。本年も変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

近年、年を追うごとに世の中の激動が加速する感があります。国際社会では歴史的な首脳会談が実現する一方で、互いに譲らない力の対立構造が、さまざまな局面で世界の秩序を崩しかねない状況を導いていることも否めません。国内においても、政治やビジネス、スポーツなどの社会で考えられないような不祥事やパワハラ問題も噴出、未曾有の自然災害による被害も年々深刻化している状況です。そうした中、今年の5月には平成に変わる新しい元号がスタートいたします。2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた官民の動きもいよいよ本格化することでしょうし、55年振りの開催が決まった大阪万博への準備も始動します。これらを契機とし、まずは国内から新しい時代を切り拓き、希望に満ちた社会を取り戻す年にしていきたいものです。

私も日釣工の活動も、1992年3月の設立から28年目を数えることとなり、現在では120社・団体に参加いただいております。「釣用品工業の進歩発展」という当初の目的はもとより、釣り環境の整備及び社会的貢献という側面から、今後とも皆さまと共によりよい社会づくりの一役を担うという自負を持って、取り組んでまいりたいと考えております。

2013年より開始した『釣り環境ビジョンコンセプトに基づくLOVE BLUE事業』は、253の企業に参加いただき「清掃」「放流」「釣り場拡大」を3つの優先事業として展開しておりますが、その地道な活動実績から得た信頼関係を礎に、全国各地でさまざまな広がりを見せております。昨年、第17回世界湖沼会議（茨城県霞ケ浦）及び明治150年記念 第38回全国豊かな海づくり大会（高知県）においても実施した水中クリーンアップ活動は、1道1府20県で延べ133日、33箇所を数えました。「放流事業」につきましては、専門機関との連携により、青森、山形、神奈川、鹿児島島の4県にて、ヒラメ、クロダイ、マダイの3魚種約39万尾の放流を実施。さらには水産庁が後援する「内水面釣り場拡大事業（わかさぎ）」にも参画させていただける運びとなり、7県・7団体にわかさぎ増殖施設を寄贈いたしました。また、地球環境基金との協働により水辺の環境保全活動を行う諸団体を支援する「LOVE BLUE助成」も、清掃活動や水辺の生態観察、里海文化の保全と継承など、全国各地さまざまな形で実を結んでいます。こうした「LOVE BLUE」の想いを具現化する活動とともに、全商品に添付をお願いしております「環境・美化マーク」につきましても、釣具店さまには引き続きご協力を賜りお力添えいただけますよう、改めてお願い申し上げます。

さて、本年も1月18日（金）～20日（日）の3日間、みなとみらい・パシフィコ横浜にて『ジャパンフィッシングショー2019』を開催いたします。キャッチフレーズは引き続き「ディープな魅力、ライブな感動」を継続。世界最高の釣用品と釣り文化を伝えるショーとして、最先端の日本の技術が生む新製品の数々と釣りの魅力を啓蒙するソフト、コンテンツをご紹介します。ここ数年の来場者を見ておりますと、女性や若年層、あるいは外国からのお客さまを含め増加傾向にあり、今回の出展社・団体数も過去最多を更新することとなりました。また、新たな試みとして「ジャパンフィッシングショー・サポーターズクラブ」を発足。SNSなどで情報を拡散し、さらなる来場誘引を図ります。中でも日本最大級の釣りメディア「TSURI HACK」との連携による情報発信は、これまでにない強力なサポートとなることが期待されております。その他、ビギナーを対象とした入門講座や人気タレント「さかなクン」を迎えてのライブショーなど、釣りファンの底辺を拡大し来場者にもさらに満足いただける企画が目白押しです。釣具店さまにおかれましても、こうした趣旨をご理解のうえ広くお知らせいただくことで、お店の活性化にお役立ていただければと存じます。また今回も、臨港パークにて「LOVE BLUE事業放流式典」を実施いたしますので、併せてご参加いただけますようご案内申し上げます。

日釣工は本年も、釣りレジャーの地位向上のため、社会と共生できる釣りを目指し、環境に配慮した道具づくりをはじめとして、国民生活を豊かにする釣りの創造に積極的に取り組んでまいります。今後とも変わらぬご厚誼を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

CONTENTS

島野会長ご挨拶	P.1
ジャパンフィッシングショー2019 -in YOKOHAMA-	P.2
規格・安全委員会からのお知らせ	P.4
LOVE BLUE委員会からのお知らせ	P.5
第22回「釣用品の国内需要動向調査 報告書」発刊のご案内	P.7
第25回理事会報告	P.7
会員向け初回無料法律相談のご案内	P.8
ロイヤル アングラー賞2019	P.8
会員動向	P.8
事務局だより	P.8

目次

JAPAN ジャパンフィッシングショー 2019 in YOKOHAMA

FISHING SHOW

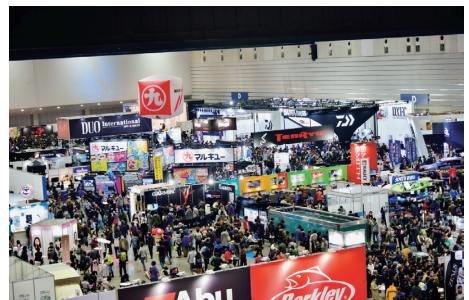
～ジャパンフィッシングショー2019～in YOKOHAMA～
ディープな魅力、ライブな感動。

ジャパンフィッシングショー2019は、経済産業省、神奈川県、横浜市、(公財)日本釣振興会、全国釣竿公正取引協議会の後援のもと、横浜・みなとみらいにあるパシフィコ横浜で海外企業を含む188社(団体)645小間の出展を得て1月18日(金)から20日(日)までの3日間にわたり開催され、41,758名(前年比100.6%)の来場をいただきました。オープニングセレモニーは初日9時15分よりメインステージで行われ、主催者を代表して島野容三会長が開会の挨拶を行い、今村雅弘衆議院議員、栗田豊滋経済産業省 製造産業局生活製品課企画官、公益財団法人日本釣振興会の高宮俊諦会長が祝辞を述べられました。その後、国土交通省、海上保安庁、水産庁、大阪釣具協同組合、ASA、EFTTAのご来賓を交えてテーブルカットが行われました。また、開会式に引き続き、臨港パーク「潮入の池」において、ご来賓とともに地元の保育園児を迎え、LOVE BLUE事業放流式典を実施致しました。



オープニングセレモニー

前回の開催より、「釣文化」を創造し、健やかな未来を育む」という新たな開催理念を掲げ、釣り界の将来を見据えた国民的レジャースポーツにするために、「釣り」を通して豊かな社会に貢献する未来を創造したいという思いを持って、様々な企画を進めてまいりました。



会場俯瞰

世界が認める品質と人気を誇る、最新の釣具・用品の進化と魅力の紹介はもちろんのこと、「ディープな魅力、ライブな感動」をテーマに釣りの奥深い、また幅広い楽しみを存分に体感いただき、ご来場いただいた皆様には充分ご満足いただけたものと考えております。

次回のジャパンフィッシングショー2020-in YOKOHAMAは、来る2020年1月17日(金)～1月19日(日)に、今年と同じパシフィコ横浜での開催が決定しております。「より広く、より深く」釣りの世界観を発信するというショーのコンセプトを継続し、最新情報をいち早くご紹介できる機会づくりを目指してまいりますので、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

ジャパンフィッシングショー2019 - in YOKOHAMA - 入場者数

* 開催場所：パシフィコ横浜

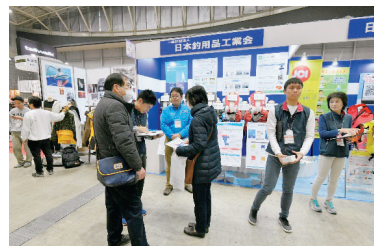
区分/日付	第1日目			第2日目			第3日目			総合計			
	1/18(金)	前年度	前年比	1/19(土)	前年度	前年比	1/20(日)	前年度	前年比	本年度	前年度	前年比	
入場者数 内訳明細	1. 釣用品関係者	1,293	1,244	103.9%	81	64	126.6%	50	100	50.0%	1,424	1,408	101.1%
	2. 一般入場者	5,028	4,723	106.5%	14,338	13,807	103.8%	13,434	14,159	94.9%	32,800	32,689	100.3%
	3. 身障者	154	164	93.9%	458	363	126.2%	402	398	101.0%	1,014	925	109.6%
	4. 高校生以下	354	205	172.7%	2,004	2,449	81.8%	2,448	2,012	121.7%	4,806	4,666	103.0%
	5. プレス関係者	279	263	106.1%	137	86	159.3%	87	193	45.1%	503	542	92.8%
	6. その他(招待者等)	243	298	81.5%	451	485	93.0%	517	488	105.9%	1,211	1,271	95.3%
	小計	7,351	6,897	106.6%	17,469	17,254	101.2%	16,938	17,350	97.6%	41,758	41,501	100.8%
男女別 内訳明細	1. 男性	6,201	5,999	103.4%	14,055	14,139	99.4%	13,591	13,811	98.4%	33,847	33,949	99.7%
	2. 女性	1,150	898	128.1%	3,414	3,211	106.3%	3,347	3,443	97.2%	7,911	7,552	104.8%

マリンレジャーの安全に取り組む3団体ともに、当工業会が信頼あるライフジャケットを展示

ジャパンフィッシングショー2019 in YOKOHAMAの釣種別エリア「船」A-306ブースにおきまして、マリンレジャーの安全に取り組む日本小型船舶検査機構、日本マリン事業協会、日本海洋レジャー安全・振興協会に皆様とともに、出展いたしました。当工業会は、ライフジャケットワーキンググループ参加各社から、信頼あるライフジャケットとして、「国土交通省型式承認品」「日本小型船舶検査機構 性能鑑定適合品レジャー用ライフジャケット（固型式）」を展示するとともに、推奨表、ガイドライン等を展示いたしました。ブースでは、ライフジャケット安全・啓発ワーキンググループのメンバーにより、ご来場の皆様に対し、ライフジャケット着用義務化等についてご説明させていただきました。



WG5社の製品を展示



ブースの様子

規格・安全委員会3ワーキンググループが、当工業会ブース内で釣りの安心安全をPR

釣糸ワーキンググループ、釣り用加工餌安全基準ワーキンググループ、eマーク事業検討ワーキンググループでは、ワーキンググループ参加各社の製品を展示し、釣りの安心安全をPRしました。



eマークブース



釣糸ブース



釣り用加工餌ブース

LOVE BLUE 委員会からのお知らせ

ジャパンフィッシングショー2019 in YOKOHAMAにて、当工業会、日釣振両会長、関係官庁の皆様による放流式典を実施

つり環境ビジョンコンセプトに基づくLOVE BLUE事業では、パシフィコ横浜隣接の臨港パークで、当工業会 島野会長、日釣振 高宮会長をはじめ、多くの関係官庁、横浜市の保育園児の皆様と一緒に、放流式典を行いました。2019年1月18日（金）の当日は、オープニングセレモニーに続き、ご関係の皆様にお集まりいただき、臨港パークの「潮入りの池にて」カサゴ種苗を約100尾放流。続いて、横浜市中区の本牧海づり施設に移動し、約4,900匹を放流致しました。合計5,000尾のカサゴ種苗が東京湾へ放流されました。



放流式典の様子

山形県鶴岡市の保育園において、クロダイの放流をお手伝いいただいた園児の皆様が「専門機関と連携した放流」を題材とした発表会を実施

今年度より各地へと広がっている「専門機関と連携した放流」では、実際にクロダイの放流作業をお手伝いいただいた山形県鶴岡市の三瀬保育園において、2018年12月8日（土）に同園にて実施された「平成30年度クリスマス発表会」にて、「LOVE BLUE～クロダイのこどもたちの冒険」と題した劇を実施していただきました。本間日出子園長からも「これまで当園は森とのつながりが多かったのですが、海についても学ぶ機会をいただいて本当にありがとうございます。クロダイの放流体験へ参加出来たことで、園児ばかりでなく、職員も含めてすぐ目の前の海について大きな気付きがありました。今後も是非、参加させてください！」と、とてもお喜びいただきました。今後も引き続き、教育機関にもお役立ていただきながら、地域の皆様にも喜ばれる事業として取り組んでまいります。



三瀬保育園・年中組の皆さん



手作りの発表会でした

プロダイバー水中クリーンアップ

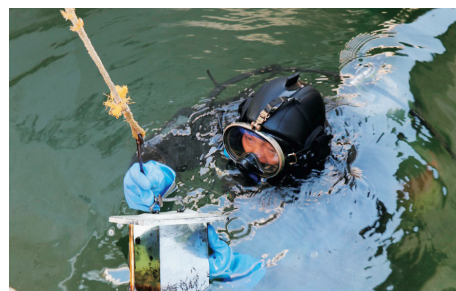
10月～12月までの実績

10/11～10/14	4日間	宮城県登米市 長沼
10/17	1日間	茨城県土浦市 霞ヶ浦 世界湖沼会議サテライト会場
10/19～10/21	3日間	滋賀県近江八幡市 琵琶湖・長命寺港
10/24～10/28	5日間	滋賀県マキノ町 琵琶湖・海津漁港
10/30～11/3	5日間	滋賀県大津市 琵琶湖・膳所港
11/6～11/9	4日間	滋賀県高島市 琵琶湖・知内漁港
11/11～11/13	3日間	滋賀県近江八幡市 琵琶湖・沖之島漁港
11/14～11/15	2日間	滋賀県大津市 琵琶湖・瀬田舟溜

合計 3県 27日間実施



水中クリーンアップ活動の様子



6年間累計で766日実施（2018年12月末日現在）

専門機関と連携した放流

山形県でのクロダイの稚魚放流

10月4日（木）クロダイの稚魚1.5万尾が専門機関である公益財団法人山形県水産振興協会との連携で、山形県内3ヶ所に放流されました。当日は近隣の保育園や県立加茂水産高等学校の皆様方と一緒に放流を実施いたしました。



放流の様子

水産庁後援 内水面釣り場拡大事業（ワカサギ）

2018年度 ワカサギ卵孵化施設の支援先が決定しました。

水産庁後援事業として、全国からの応募受付（期間5/15～6/29）を行い、水産庁、中央水産研究所、全国内水面漁業協同組合連合会の皆様方にご協力を賜りながら、当工業会LOVE BLUE委員会が厳正なる審査を行い、2018年度ワカサギ卵孵化施設等の支援先として7県7団体が決定いたしました。

- ・埼玉県 入間漁業協同組合
- ・群馬県 両毛漁業協同組合
- ・茨城県 霞ヶ浦漁業協同組合
- ・千葉県 養老川漁業協同組合
- ・山梨県 河口湖漁業協同組合
- ・兵庫県 揖保川漁業協同組合
- ・鳥取県 さくらおろち湖ワカサギ育成推進協議会

企画プロジェクトからのお知らせ

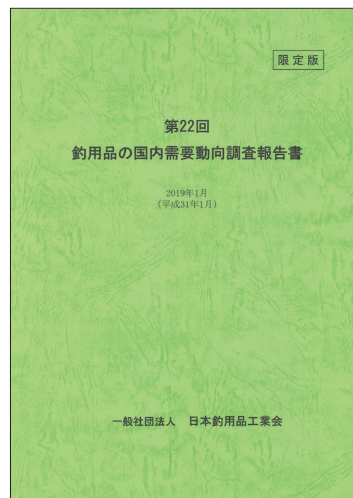
企画プロジェクト（櫻井孝行リーダー）では、会員の皆様へ新たなサービスのご提供を検討させて頂いております。この件に關しまして、会員の皆様の海外進出のきっかけ作りに関しましてアンケートを実施させて頂きたいと考えております。詳しくは、別途お送りさせて頂きますご案内をご覧ください。

第22回「釣用品の国内需要動向調査報告書」発刊のご案内

当工業会（市場調査委員会）は、2019年2月に第22回目となる「釣用品国内需要動向調査」報告書を発刊しました。「釣用品国内需要動向調査」は、釣用品メーカーを対象に国内釣用品の出荷量を調査、その回答結果を元にメーカー出荷ベースの釣用品市場規模を算出、更に商品分野別の動向や輸出入統計データ等を掲載した資料です。皆様の商品戦略、営業政策など各種戦略立案のための基礎データとしてご活用頂ければ幸いです。

【調査結果の要約】

2017年の釣用品国内出荷規模は対前年比102.5%の1,352億円、2012年以降6年連続のプラス成長となった。また、2018年の釣用品国内出荷規模（見込）は対前年比101.0%と引き続きプラス成長の見込となりました。



限定版

第22回
釣用品の国内需要動向調査報告書

2019年1月
(平成30年1月)

一般社団法人 日本釣用品工業会

国内出荷規模：(単位：億円) ②

品目	2017年(前年比)		2018年(見込)		2019年(見込)	
	出荷額	前年比	出荷額	前年比	出荷額	前年比
釣り用品	39,470	102.5%	31,779	101.0%	33,400	101.0%
釣り具	27,010	101.0%	25,000	101.0%	26,000	101.0%
釣り服	6,460	102.5%	6,779	102.5%	7,400	102.5%
釣り靴	6,000	102.5%	7,000	102.5%	7,000	102.5%
釣り小物	1,300	102.5%	1,179	102.5%	1,400	102.5%
釣り具	5,900	102.5%	6,400	102.5%	6,900	102.5%
釣り服	2,400	102.5%	2,500	102.5%	2,700	102.5%
釣り靴	1,100	102.5%	1,100	102.5%	1,200	102.5%
釣り小物	500	102.5%	499	102.5%	470	102.5%
釣り具	4,100	102.5%	4,179	102.5%	4,100	102.5%
釣り服	2,900	102.5%	3,079	102.5%	3,300	102.5%
釣り靴	3,900	102.5%	3,900	102.5%	3,900	102.5%
釣り小物	6,000	102.5%	6,179	102.5%	6,100	102.5%
釣り具	10,710	102.5%	10,700	102.5%	10,800	102.5%
釣り服	900	102.5%	900	102.5%	900	102.5%
釣り靴	2,900	102.5%	2,900	102.5%	2,900	102.5%
釣り小物	5,200	102.5%	5,200	102.5%	5,100	102.5%
合計	131,300	102.5%	125,200	102.5%	128,000	102.5%

第25回理事会報告

去る、平成30年11月28日（水）に東京都港区、グランドニッコー東京 台場にて第25回理事会が開催されましたので、概要をご報告申し上げます。

第1号議案 委員会活動報告に関する件

(1) LOVE BLUE委員会

小島忠雄委員長が、つり環境ビジョンコンセプトに基づくLOVE BLUE事業について、参加企業数、優先三事業の進捗状況、国、地方自治体との連携等の進捗について説明と報告を行った。

(2) JAF実行委員会

大村一仁委員長及び事務局が2019年1月に開催されるジャパンフィッシングショー2019 in YOKOHAMAについて、説明と報告を行った。

(3) 規格・安全委員会

藤井治幸委員長が、WGの活動、フィッシングショーにおける説明会等に関する説明と報告を行った。

(4) 市場調査委員会

大竹有司委員長が、2019年2月に発刊する国内需要動向調査内容について調査状況の説明と報告を行った。

第2号議案 釣り人口拡大施策に関する件

(1) 企画プロジェクト報告

櫻井孝行リーダーが、「あした、釣り行こ！通信」について、アウトドア情報「ソトシル」との連携の効果と今後の方向性、会員向け新サービスとして海外進出のきっかけ作りとして海外開催のフィッシングショーへの出展サポートを検討している件につき説明と報告があった。

(2) 釣りミラiproject

大村一仁リーダーより、未経験の釣り意向者、特に20・30代の若年女性の釣り意向は高く、今後はこの層を深掘しつつ「あした、釣り行こ！通信」の5万を超える「いいね」と連携しながら、業界が一つになり、釣り人口拡大に取り組んでいくとの説明と報告があった。

第3号議案 平成30年度中間決算監査報告に関する件

第4号議案 会員代表者変更及び入退会に関する件

第5号議案 規則・規程改正に関する件

第6号議案 (一社) 日本釣用品工業会 後援名義使用許諾申請に関する件

第7号議案 その他報告承認に関する件

それぞれの議案につき、議長が議場に諮ったところ、満場異議なく承認された。

以上

会員向け初回無料法律相談の実施：随時受付中！

9月1日より、会員の皆様へ初回無料にて、法律相談をご利用いただける新サービスの提供を開始致しました。詳細は、別添資料もしくは当工業会ホームページをご覧ください。

ロイヤル アングラー賞 2019

日釣工では、日頃フィッシングに対し造詣が深く、フィッシングを趣味とし愛好されている方及び釣り文化の発展に貢献されている方々に対し「ロイヤルアングラー」として表彰させて頂いております。今年度は、第52代横綱 北野富士勝昭様が受賞されました。

北の富士勝昭氏の紹介

第52代横綱、NHK大相撲解説者。1942年北海道生まれ。1957年出羽海部屋に入門。十両で史上3人目の全勝優勝。新入幕で13勝2敗の最多勝記録。1966年大関昇進、1970年、第52代横綱昇進。現役在位、105場所、横綱在位27場所。幕内優勝回数10回、そのうち3回が全勝優勝。74年引退、井筒を襲名。のちに井筒部屋と九重部屋を合併継承、九重親方となる。第58代横綱・千代の富士、第61代横綱・北勝海を育てる。

釣りを始めたきっかけ、角界入りまでの釣り歴、エピソード

北海道のニシン漁で有名な留萌で育った私は、自然に子供の頃から近くの海での釣りに夢中になった。春はニシンの子供を釣り、夏はタオルですくったアミエビをエサにチカ釣り、秋は小舟に乗り込み「ワリバシ」をウキにしてサヨリを釣った。釣った魚は、夕餉のおかずとなり家族からとても喜ばれたことを思い出す。また、ナイロン製の釣り糸など容易く手に入らない時代であり、牧畜として飼われているウマの尻尾を良く抜きに行ったが、蹴られそうになったこともあった(笑)。釣りが高じて、中学1年生の時には体が大きかったこともあるが、ニシン漁の船でのアルバイトまでやった。角界に入門し上京する中学3年生までこのように釣りに興じていた。

角界入り後の釣りに関わるエピソード、好きな釣り

角界に入り引退するまでは釣りから遠ざかっていたが、32歳で横綱を引退してから、釣りを再開した。ホームグラウンドは東京湾の船釣り中心で、ハゼ釣り、キス釣りに友人と良く出かけていた。相撲部屋の親方となった当初はお金が無く、弟子とハゼ釣りに行き夕食のオカズとしたこともあった(笑)。新弟子時代の千代の富士(第58代横綱)を伴って千葉県釣りに連れて行って、イナダ・ワラサの

群れに当り大釣りしたことも。また、買ったばかりの自慢の和竿を初回使用で魚に持っていかれ海に沈めてしまったことは、いまだに悔しい思い出である。年間の6回の本場所の内、三場所は国技館でない地方場所となるが、一番楽しみなのは11月の九州場所、稽古が終わるとほぼ毎日釣りに行っていた。東京でも九州でも釣った魚は、天ぷら等に調理してお酒の肴とするのが最高の楽しみである。



釣りの魅力について

子供の頃の育った環境もあり、美しい自然と海が大好き。釣れても釣れなくても海の上で自然を感じ、釣りをしているだけでリフレッシュできる。そして、もし釣れたらその新鮮な魚を調理し食べる魅力は何物にも代えがたい。今後も機会がある毎に釣りに行きたい。

会員動向

第25回理事会におきまして下記の通り会員代表者の変更が承認されました。

【会員代表者変更届】

◆株式会社ジャクソン

〒422-8036 静岡県静岡市駿河区敷地1-20-15

Tel054-238-0223

新代表者 代表取締役社長：加藤 慶太 氏

旧代表者：加藤 千洋 氏



事務局だより

◆新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりありがとうございました。本年も事務局職員一同各事業の推進と当工業会の活性化を図ってまいりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

◆本年度も「第22回釣用品国内需要動向調査報告書」を発刊しました。

皆様の業界動向の把握と将来への戦略立案にご活用頂ければ幸いです。また、今回の調査にご協力頂きました釣り関連の製造業者様・流通関連会社様・業界関連の皆様及び市場調査委員会の皆様には、心から御礼を申し上げます。

JAFTMA
JAPAN FISHING TACKLE MANUFACTURERS ASSOCIATION

一般社団法人
日本釣用品工業会

〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-22-8 日本フィッシング会館5F
TEL 03 (3555) 0101 (代表) FAX 03 (5542) 2929 <http://www.jaftma.or.jp/>